長洲町立長洲小学校　校長便り　No.５１

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年１１月２１日(月)

「熊本県学力調査に向けて」【雑感】学習には読書が必要

熊本県学力調査に伴い子供達からは「え～っ…」という声が聞こえていますが、学力調査の問題に対して子供達は「問題文が長い」、「複雑」という印象があるかもしれません。でも、毎年高得点を取る子供達の特徴として「読書量」と「読書の質」が高いということが挙げられます。本をよく読んでいる子供は、問題をしっかり理解でき、「何を問われているか」を把握した上で問題に答えています。必要な情報を探し出し、それを活用する、そしてそれをアウトプットすることができているのです。今、文部科学省が子供達に求めている力はこのような力なのです。

主幹教諭時代、６年生の学級で算数の授業をしていた時のこと、６年生は「比例と反比例」について学習をしていました。毎日楽しく、厳しい雰囲気の中で学習が進んでおり、解らない所があってもよく質問してくれて、私も自分自身の指導を振り返ることができ、嬉しく感じていた頃です。

そんな中、子供達の一つの傾向に気が付きました。一言で言えば、読書量が足りないことに起因する語彙不足で、問題の背景や連続性について俯瞰できないということです。1という問題があって、その小設問が①②③と並ぶような場合、①②③は関連していることが多いのですが、その関連を見いだせないと、問題を解くことができません。このような問題は、まず全文を読むことが大切だと思うのですが、子供達は問題の背景を表す文を読んだ後、①を読んですぐに答えを導き始めるようです。そして②の問題は、そのつながりを無視して解き始め、当然、誤答になってしまいます。やはり文章を理解する力に問題があるのだと感じています。本は読まなければなりません。長いスパンで学力を定着させていくためには、その基盤が必要です。多くの言葉を知るための読書が、活きて働く知識の基盤となるようです。これからの読書、考えてみましょう。

子供達が生きる未来社会②

子供達が生きる未来社会は、人生１００年時代です。

寿命の長期化によって先進国の２００７年生まれの２人に１人が１０３歳まで生きる「人生１００年時代」が到来する、１００年間生きることを前提とした人生設計の必要性がある訳です。これまでの人生設計は「２０年学び、４０年働き、２０年休む」という「教育・仕事・老後」の３段階が一般的でした。しかし、１００歳まで生きることが一般化する社会では、年齢による区切りがなくなり、学び直しや転職、長期休暇の取得など人生の選択肢が多様化すると予想されるのです。今は、６５歳まで働けばなんとかなるだろうという考え方もあるようですが、そう簡単にはいかないのが現代社会です。人生設計そのものを根本から考え直す必要があるようですね。

では、何をすればいいのか？そんなにすぐに数十年先の社会を見据えなさいという訳ではないのですから、先ず子供達がやらなければならないのは、主体的・協働的な学習です。そして身に付けた知識理解を基にした創造的な学習をすることが望まれます。新しいものを生み出すには、新しいことにチャレンジすることが重要です。そのような姿勢を今のうちから育み、未来に備えたいものです。

シリーズ「自分を語る」#５１

さて、平成８年度玉名町小学校での一学期始業式の日。「５年１組、澤田敦先生。」「お～…」担任発表でのいつものどよめきに、身の引き締まる思いでした。当時の子供達の反応は「怖そう」というものでしたが、この時の子供達と過ごした２年間は、私にとっては９年間のベースになるものとなりました。

着任した年、玉名町小学校は「学力充実」についての研究推進校でした。私はそれまで「教科指導の何たるか」をあまり学んでおらず、勉強のための良いチャンスでしたが、非常に面喰った時間でもありました。専門用語が飛び交う会議、時間外でもお構いなしの会議…。しかし、リーダーを中心に他の先生方が同じ目標に進んでいるという緊張感がありました。私も時間外勤務など抵抗もあまりなく、研究発表会前の一週間は帰宅時間が午前になることもありました。常に研究が付きまとう玉名町小学校での生活で、私も年間３回ほどは研究授業をしていました。それが今ではとても良かったと痛感しています。私事として６月、無事に（?）結婚し、同僚からあやかされながら、照れまくりながら、仕事に専念しようと誓う澤田でした。

夏休みも近くなったある日、例の如く、「ナイトハイク」の話を持ち出しました。すぐに子供達は食いついてきました。しかし、前任校にも増して保護者からの「?」「なぜ?」が寄せられました。この壁をクリアするためのノウハウは経験済みですから、真摯に丁寧に保護者に対して説明し、校長先生にも了解を頂きました。学級委員さんがイベントに協力的なこともあり、実施にゴーサインが出ました。実施初年度ということもあり参加者は３７人中２３名でした。そこだけが残念でした。

これまでの経験から５年生は３０㎞、６年生は４２．１９５㎞と設定していましたので、平成８年度は３０㎞です。この年の行事はさらっと紹介しますね。コースはＪＲ玉名駅からＪＲ上熊本駅に移動しそこをスタートします。熊本市西区を通過し、いわゆる「河内線」を通って玉名に帰るコースでした。昨年度の経験から全員完歩がテーマでしたが、あっさり全員ゴールしました。実際、３０㎞以降が自分の弱い心との戦いが始まるので、３０㎞までは結構元気に歩くんですよ。

この行事の成功が次に繋がっていったことは言うまでもありません。平成９年度は持ち上がりの６年生担任でもありましたので、行事自体はスムーズに動いていきました。しかも、昨年のナイトハイクが「あの行事は良かった。」という評判がジワリと広がっていたのです。私が担任させて頂いた学級では、そのことが追い風となっていました。

玉名町小学校での４２．１９５㎞のコースを紹介します。スタート位置は何と合志市にあります。熊本電鉄の御代志駅です。ＪＲ玉名駅から熊電を乗り継ぎ御代志駅まで移動し、夏休み中の午後５時がスタート時刻でした。そこから、菊池市、山鹿市、旧菊水町を経由して、ゴールの玉名町小学校を目指すコースです。平成９年度のナイトハイクで何より嬉しかったのは、少なかった参加者が全員参加になったことでした。子供同士、保護者同士で参加を呼びかけながら、この年は他職員の有志の参加もあり、１００名規模に膨れ上がりました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）